

DXの基礎とビジネス活用

ムダをなくす

1. 物と時間を節約する
2. 単純作業と繰り返し作業

ミスをなくす

3. 手作業ミスを防ぐ
4. 重大な判断ミスを防ぐ
5. 品質を維持する

データを活用する

6. ユーザー行動の可視化

7. ターゲティング

8. データサイエンスと予測精度

9. データの収集

デジタル化のリスク管理

10. セキュリティ意識の徹底

11. モラル意識の徹底

まとめ

12. まとめ

今回のポイント

物と時間の節約

DXによる、物と時間の節約

1. ポイント

- まずデジタル化で効率化したい点
 - 物の節約 紙をデジタル化する
 - 時間の節約 会議をオンラインで行う

2. これらが取り組みやすい理由

- ビジネスの現場で、多くの人気がつきやすい「ムダ」
- デジタル化して効率化すれば、仕事しやすい、うれしい
= 自分事としてDXの課題を認識することができる

今回のポイント

DXによる紙の削減

請求業務を、紙ではなくデジタルで行う



今回のポイント

DXによる移動時間、賃料の削減

DXによる移動時間の削減

1. オンライン会議

- 自宅から参加
- 移動時間、オフィス賃料の削減に大きく貢献



DXによる賃料の削減

1. 賃料は高い費用

- たとえばミーティング部屋1つで年間100万円
- 10部屋あったら、年間1,000万円
- オフィスの賃料は非常に高い（しかも毎月かかる）



DXによる、物と時間の節約

1. ポイント

- まずデジタル化で効率化したい点
 - 物の節約 紙をデジタル化する
 - 時間の節約 会議をオンラインで行う

2. これらが取り組みやすい理由

- ビジネスの現場で、多くの人が気づきやすい「ムダ」
- デジタル化して効率化すれば、仕事しやすい、うれしい
= 自分事としてDXの課題を認識することができる

DXの基礎とビジネス活用

ムダをなくす

1. 物と時間を節約する
2. 単純作業と繰り返し作業

ミスをなくす

3. 手作業ミスを防ぐ
4. 重大な判断ミスを防ぐ
5. 品質を維持する

データを活用する

6. ユーザー行動の可視化

7. ターゲティング

8. データサイエンスと予測精度

9. データの収集

デジタル化のリスク管理

10. セキュリティ意識の徹底

11. モラル意識の徹底

まとめ

12. まとめ

今回のポイント

単純作業と繰り返し作業

「単純作業」「繰り返し作業」を自動化する

1. ビジネス現場でDXを行うときのポイント

- 全ての仕事を一気にデジタル化するのは非常に大変
- 仕事を効率化しやすいところからデジタル化していく

2. DXで効率化しやすい業務

- 単純作業
- 繰り返し作業（パターン化された作業）

今回のポイント

単純作業

単純作業

1. 経費精算

- レシートに書かれている金額を入力して、経費として会社に申告



単純作業

1. 経費精算

- レシートに書かれている金額を入力して、経費として会社に申告
→ レシートをカメラで読み取ると、自動的に金額が申告される



今回のポイント

繰り返し作業

繰り返し作業

1. 同じような質問をたくさん受ける

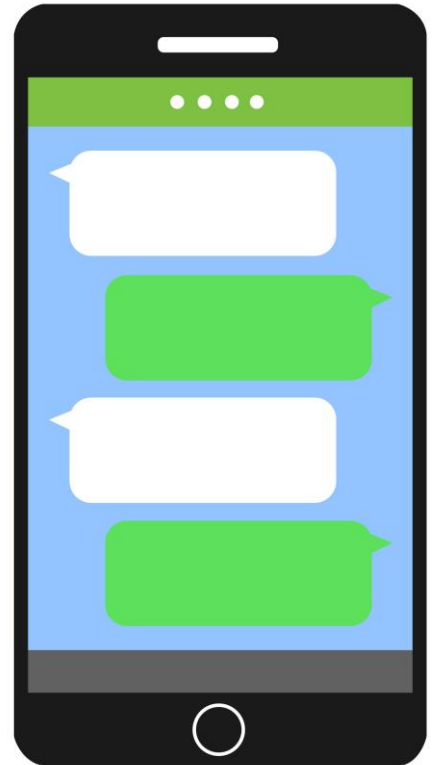
- ・ 社員「うちの会社の退職金制度について質問があります」
- ・ 人事「また同じ質問か・・・毎日毎日・・・面倒だな・・・」



繰り返し作業

1. 同じような質問をたくさん受ける

- 社員「うちの会社の退職金制度について質問が・・・」
- まずはチャットで入力・相談すると、
自動的に教えてくれる
- それでも分からないところがあれば
人事に直接相談
→ 人事の「繰り返し作業」を効率化できる



今回のポイント

営業のDX

営業のDX

1. オンラインで営業（商品の説明を繰り返し行う）

- ・ 効率的に営業を行うことができるものの、実際に訪問する営業に比べると、なかなか営業先にアピールできないケースもある



今回のポイント

オンライン営業と、訪問営業の組み合わせ

オンラインと訪問営業の組み合わせ

1. まずは、オンラインで営業して、顧客の反応を見る
2. 反応がよければ、実際に営業担当者が訪問して、詳しく説明をして、受注につなげる



今回のポイント

まとめ

「単純作業」「繰り返し作業」を自動化する

1. ビジネス現場でDXを行うときのポイント

- 全ての仕事を一気にデジタル化するのは非常に大変
- 仕事を効率化しやすいところからデジタル化していく

2. DXで効率化しやすい業務

- 単純作業、繰り返し作業（パターン化された作業）

3. 気をつけたいポイント

- オンライン＋訪問営業、といった組み合わせも重要
（一部だけデジタル化する）

DXの基礎とビジネス活用

ムダをなくす

1. 物と時間を節約する
2. 単純作業と繰り返し作業

ミスをなくす

3. 手作業ミスを防ぐ
4. 重大な判断ミスを防ぐ
5. 品質を維持する

データを活用する

6. ユーザー行動の可視化

7. ターゲティング

8. データサイエンスと予測精度

9. データの収集

デジタル化のリスク管理

10. セキュリティ意識の徹底

11. モラル意識の徹底

まとめ

12. まとめ

今回のポイント

DXでミスをなくす

DXでミスをなくす

1. ビジネス現場でDXを行うときのポイント

- デジタルの活用によって、
さまざまな「人の手作業」によるミスを防げる場合がある

2. DXで防ぎたいミス（例）

- 単純な手作業ミス
- 重大な判断ミス
- 品質のばらつき

今回のポイント

デジタルの判断は、人間よりも正確

DXでミスをなくす

1. よくあるデジタルに対する誤解

- 「デジタルで判断しても信用できない」
- 「結局人間がやらないと意味がない」

2. 事実

- デジタルによる判断能力は進化している
- 画像判断能力（物体認識精度）については、
すでに人間を上回っている
→ むしろ人間に任せるほうが問題（デジタルを活用すべき）

DXでミスをなくす

3. 有名なイベント

- ILSVRC2012という画像認識のコンテスト
- 画像認識モデルの改善が進み、2015年に人間の精度を超えた



DXでミスをなくす

3. 有名なイベント

- ILSVRC2012という画像認識のコンテスト
- 画像認識モデルの改善が進み、2015年に人間の精度を超えた



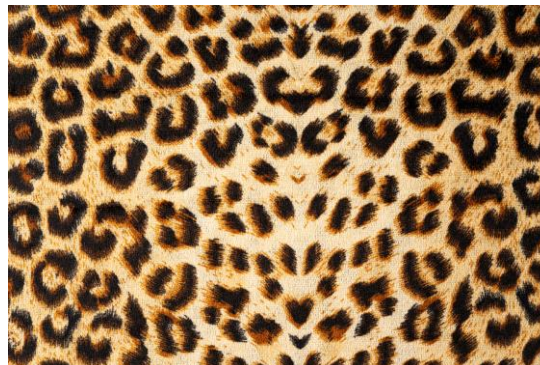
この動物は？ヒョウ？チーター？

→ 判断がむずかしい

DXでミスをなくす

3. 有名なイベント

- ILSVRC2012という画像認識のコンテスト
- 画像認識モデルの改善が進み、2015年に人間の精度を超えた



この柄はヒョウ！

今回のポイント

デジタルを活用して、
人間がやるよりもミスを減らすことを目指す

今回のポイント

デジタルで、単純な手作業のミスを防ぐ

DXでミスをなくす

1. ビジネス現場でDXを行うときのポイント

- デジタルの活用によって、
さまざまな「人の手作業」によるミスを防げる場合がある

2. DXで防ぎたいミス（例）

- 単純な手作業ミス
- 重大な判断ミス
- 品質のばらつき

今回のポイント

経費精算の例

DXで単純な手作業ミスをなくす

1. 経費精算

- レシートに書かれている金額を入力して、経費として会社に申告



DXで単純な手作業ミスをなくす

1. 経費精算

- レシートに書かれている金額を入力して、経費として会社に申告
→ レシートをカメラで読み取ると、自動的に金額が申告される



DXで単純な手作業ミスをなくす

1. 経費精算

- レシートに書かれている金額を入力して、経費として会社に申告
→ レシートをカメラで読み取ると、自動的に金額が申告される

2. ポイント

- 手作業による入力、どうしてもミスが起きがち
- デジタル技術を活用して、より精度の高い金額入力をめざす

DXの基礎とビジネス活用

ムダをなくす

1. 物と時間を節約する
2. 単純作業と繰り返し作業

ミスをなくす

3. 手作業ミスを防ぐ
4. 重大な判断ミスを防ぐ
5. 品質を維持する

データを活用する

6. ユーザー行動の可視化

7. ターゲティング

8. データサイエンスと予測精度

9. データの収集

デジタル化のリスク管理

10. セキュリティ意識の徹底

11. モラル意識の徹底

まとめ

12. まとめ

今回のポイント

DXで重大な判断ミスを防ぐ

DXでミスをなくす

1. ビジネス現場でDXを行うときのポイント

- デジタルの活用によって、
さまざまな「人の手作業」によるミスを防げる場合がある

2. DXで防ぎたいミス（例）

- 単純な手作業ミス
- 重大な判断ミス
- 品質のばらつき

今回のポイント

DXと医療

DXで重大な判断ミスを防ぐ



医師による医療画像の検査、診断

- 画像検査の見落とし
- 疾患を見つけるべきところを、
見落としてしまった
 - 医療ミス（人為的ミス）
 - 患者側から訴訟されるケースも

DXで重大な判断ミスを防ぐ

1. 医療ミスによる訴訟リスク

- 訴訟費用
- 患者への支払い
→ 数千万円になることも

2. DXを活用した、医療ミスを減らす施策（案）

- AIを活用した、画像検査
- 人間の目視チェック＋デジタルを組み合わせる（二重チェック）

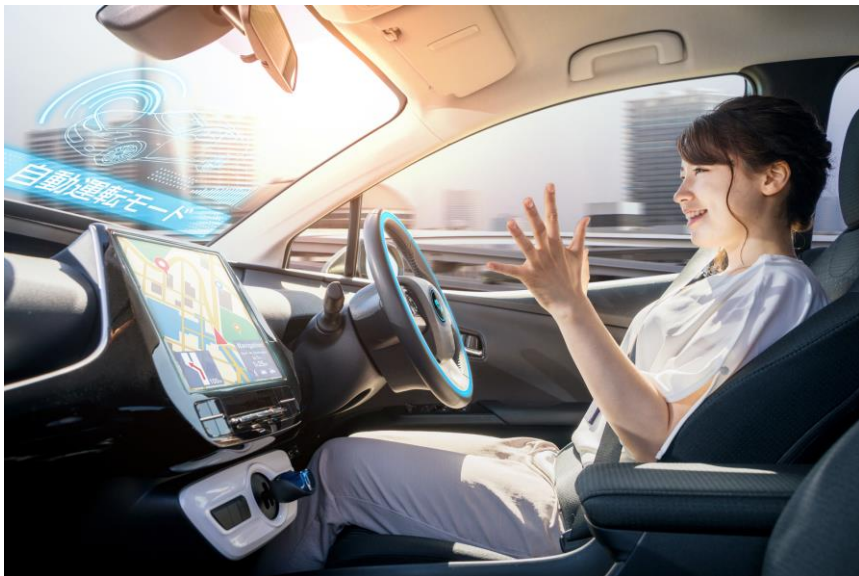
今回のポイント

DXと自動車

DXで重大な判断ミスを防ぐ

3. 自動運転という技術

- 車の位置情報データや、前方の車をカメラで認識して、
- 運転者が手を離しても、自動で運転される仕組み



DXで重大な判断ミスを防ぐ

3. 自動運転という技術

- 車の位置情報データや、前方の車をカメラで認識して、
- 運転者が手を離しても、自動で運転される仕組み

→ 高齢者など運転ミスを起こしやすい方には非常に有益



今回のポイント

DXと契約書

DXで重大な判断ミスを防ぐ

1. 契約書の文章を、AI（人工知能）でチェック

- 明らかに不利な条件がないかを洗い出す
- 人間の目だと見落としがちな文言をくまなくチェックできる



DXの基礎とビジネス活用

ムダをなくす

1. 物と時間を節約する
2. 単純作業と繰り返し作業

ミスをなくす

3. 手作業ミスを防ぐ
4. 重大な判断ミスを防ぐ
5. 品質を維持する

データを活用する

6. ユーザー行動の可視化

7. ターゲティング

8. データサイエンスと予測精度

9. データの収集

デジタル化のリスク管理

10. セキュリティ意識の徹底

11. モラル意識の徹底

まとめ

12. まとめ

今回のポイント

DXで品質を維持する

DXでミスをなくす

1. ビジネス現場でDXを行うときのポイント

- デジタルの活用によって、
さまざまな「人の手作業」によるミスを防げる場合がある

2. DXで防ぎたいミス（例）

- 単純な手作業ミス
- 重大な判断ミス
- 品質のばらつき

DXで品質を維持する

1. 工場

- 製品に問題がないか、人間の目でチェック
→ 製品をカメラで分析して、その画像から、
不具合がありそうなところを発見する



今回のポイント

デジタルの良いところは「再現性」が高い

DXで品質を維持する

1. よくある悩み

- 「せっかく品質チェック担当を採用して、育てたのに、退職してしまった・・・また採用しないと・・・」
- 「品質チェック担当が今日、休暇を取ってしまった。他の人はチェックするスキルはないし・・・」
 - 人に依存している状態はよくない（再現できない）
 - 「属人的」＝人のスキル、経験に頼っている状態

DXで品質を維持する

2. デジタルの良いところ

- いちど品質チェックのシステムを構築できれば、
あとはずっと働き続けてくれる
- デジタルは、休まずに、同じレベルの作業を続けてくれる
→ 再現性が高い

今回のポイント

DXで品質を維持する

DXの基礎とビジネス活用

ムダをなくす

1. 物と時間を節約する
2. 単純作業と繰り返し作業

ミスをなくす

3. 手作業ミスを防ぐ
4. 重大な判断ミスを防ぐ
5. 品質を維持する

データを活用する

6. ユーザー行動の可視化

7. ターゲティング

8. データサイエンスと予測精度

9. データの収集

デジタル化のリスク管理

10. セキュリティ意識の徹底

11. モラル意識の徹底

まとめ

12. まとめ

今回のポイント

データを活用する

データを活用する

1. ビジネス現場でDXを行うときのポイント

- デジタルの活用によって「顧客の行動データ」を取れる
- サービスの改善や、マーケティングに役立てる

2. データの活用（例）

- ユーザー（顧客）行動の可視化
- ターゲティング
- データサイエンスと予測精度
- データの収集

今回のポイント

ユーザー行動を「数字で」見える

ユーザー行動の可視化

1. デジタルサービスの特徴

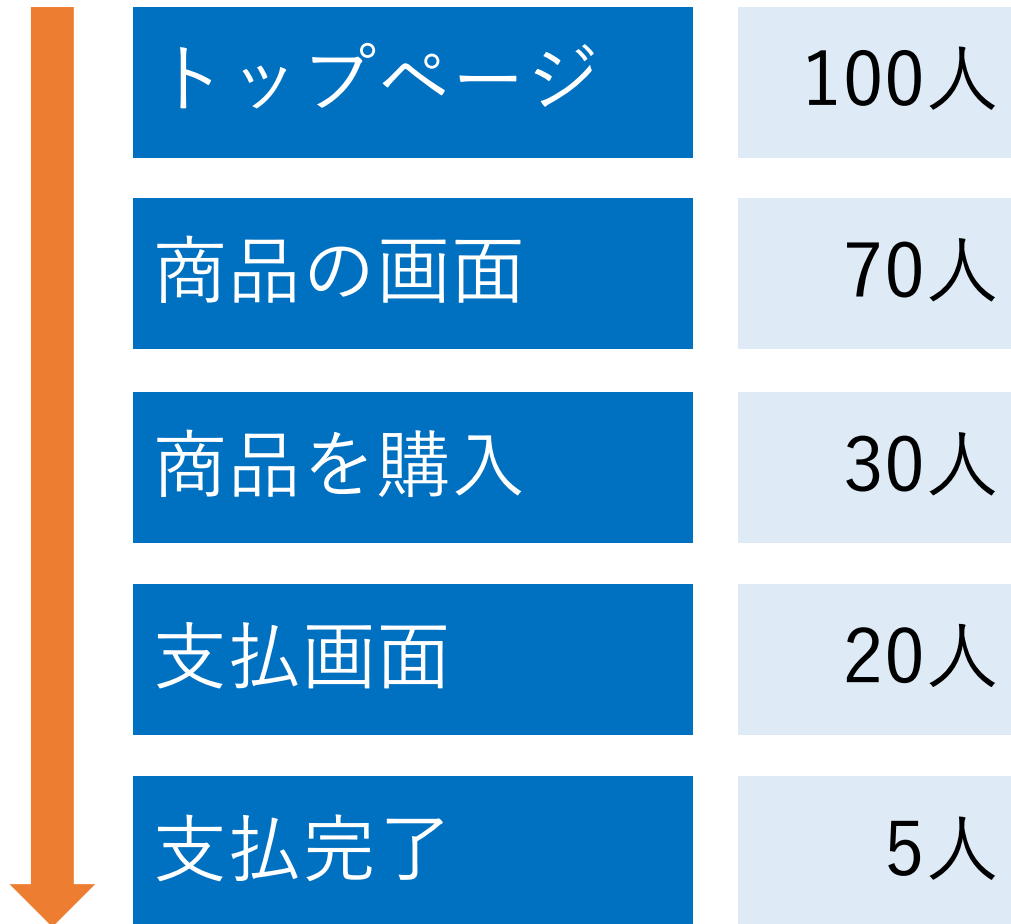
- ユーザーの動きを数字で見ることができる
- 何人がユーザー登録して、うち何%が商品を購入したか
 - 改善がうまくいっているか分かりやすい
 - 売上を増加させるためには、細かい改善が重要！

今回のポイント

オンラインショップ

ユーザー行動の可視化

サイト訪問してから支払完了するまでのプロセス



ユーザー行動の可視化

それぞれの指標（人数）を増やすための施策を考える



ユーザー行動の可視化

1. 商品の画面に移動させる

- 商品の画像をオシャレにする
- たくさんの商品を見せて、ユーザーの興味を引く

2. 商品を購入させる

- 購入ボタンを目立たせる
- 「いまだけ10%オフ」などキャンペーン

ユーザー行動の可視化

3. 支払画面へ誘導

- 支払ボタンを目立たせる

4. 支払完了を促進

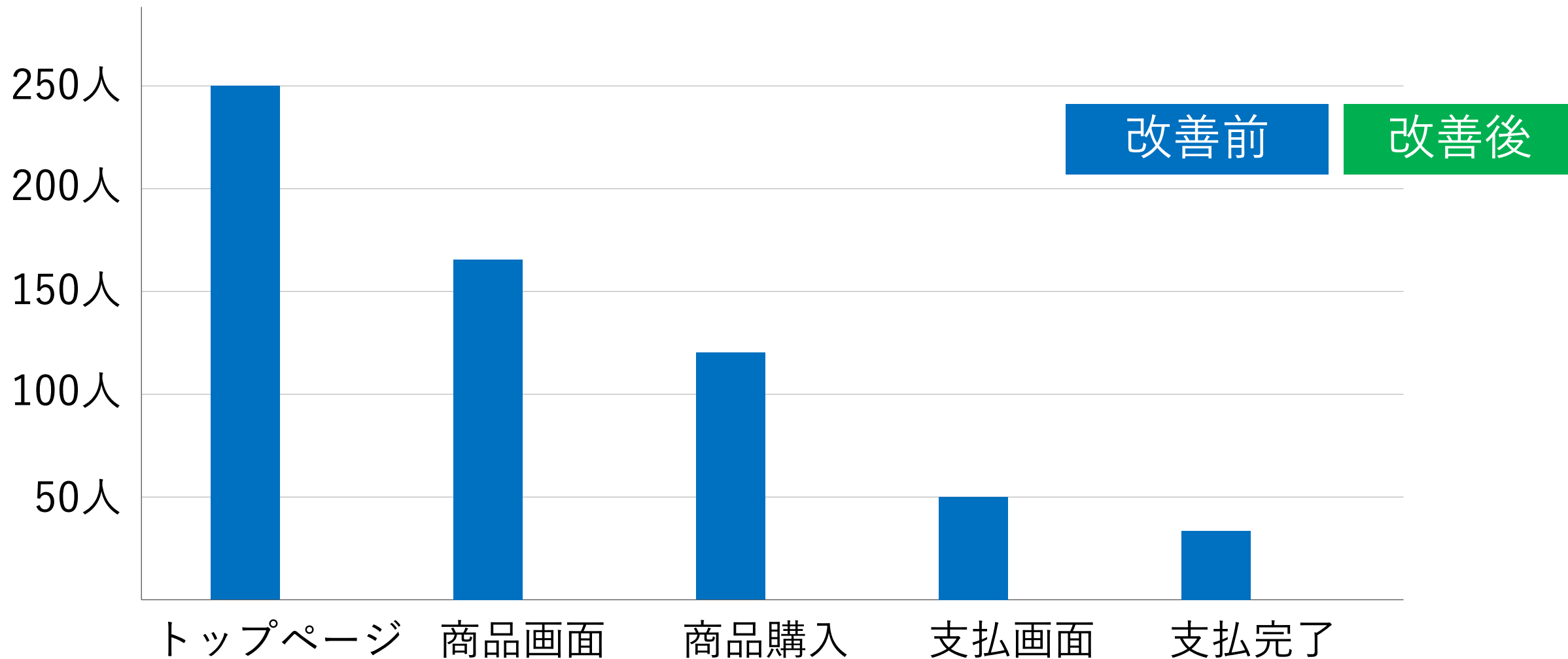
- クレジットカード入力が面倒で購入を止めてしまう
→ 他の支払いもできるようにする

今回のポイント

グラフで見てみる
(ファネル分析)

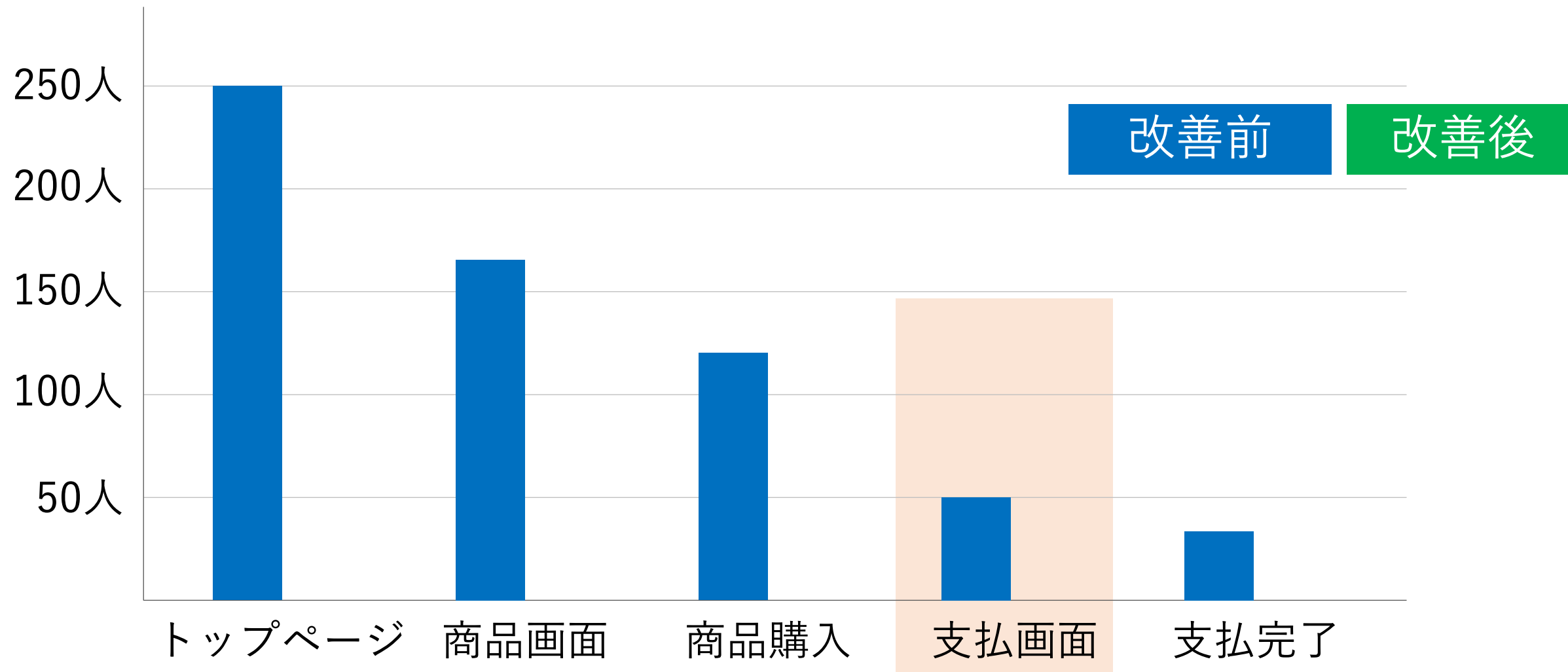
ユーザー行動の可視化

トップページに来た人のうち、何人が支払完了までたどり着いたか



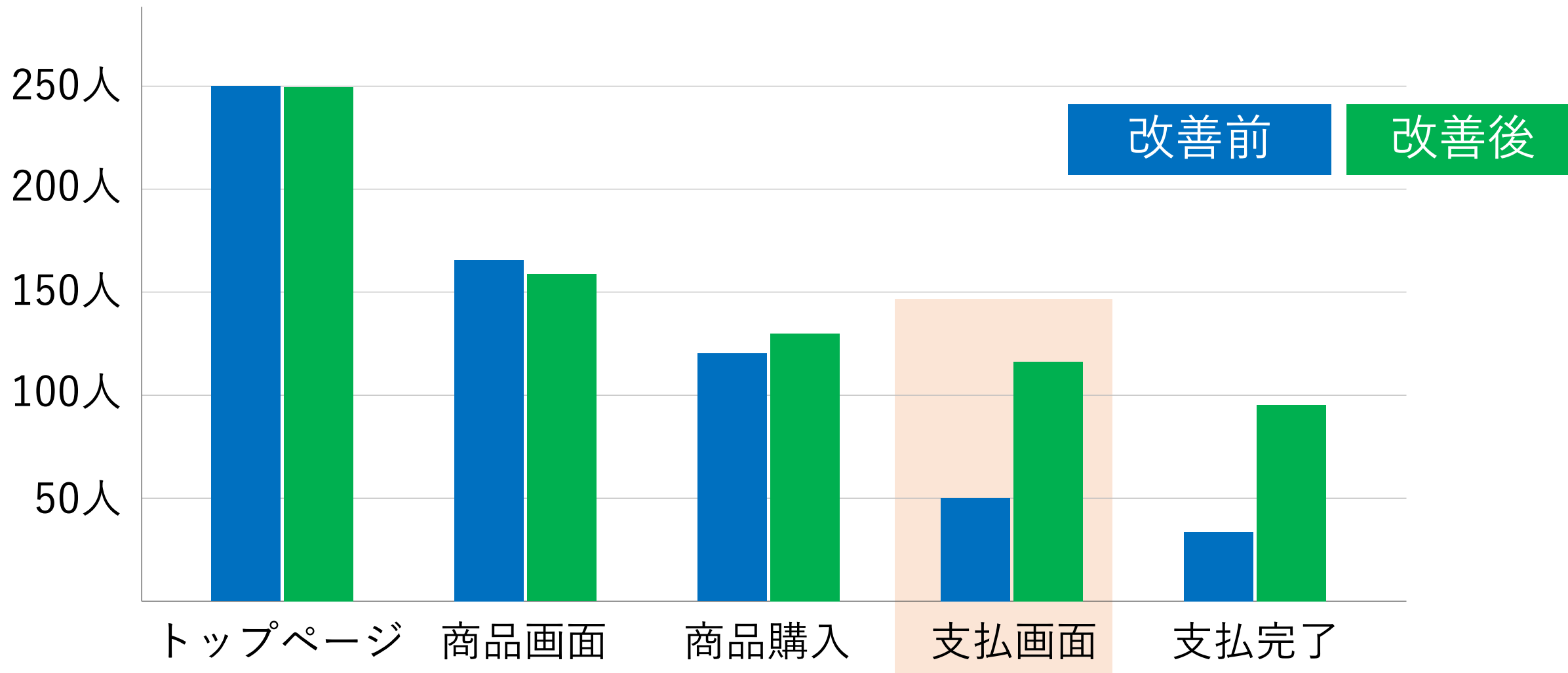
ユーザー行動の可視化

支払画面にたどりつけないユーザーが多い？



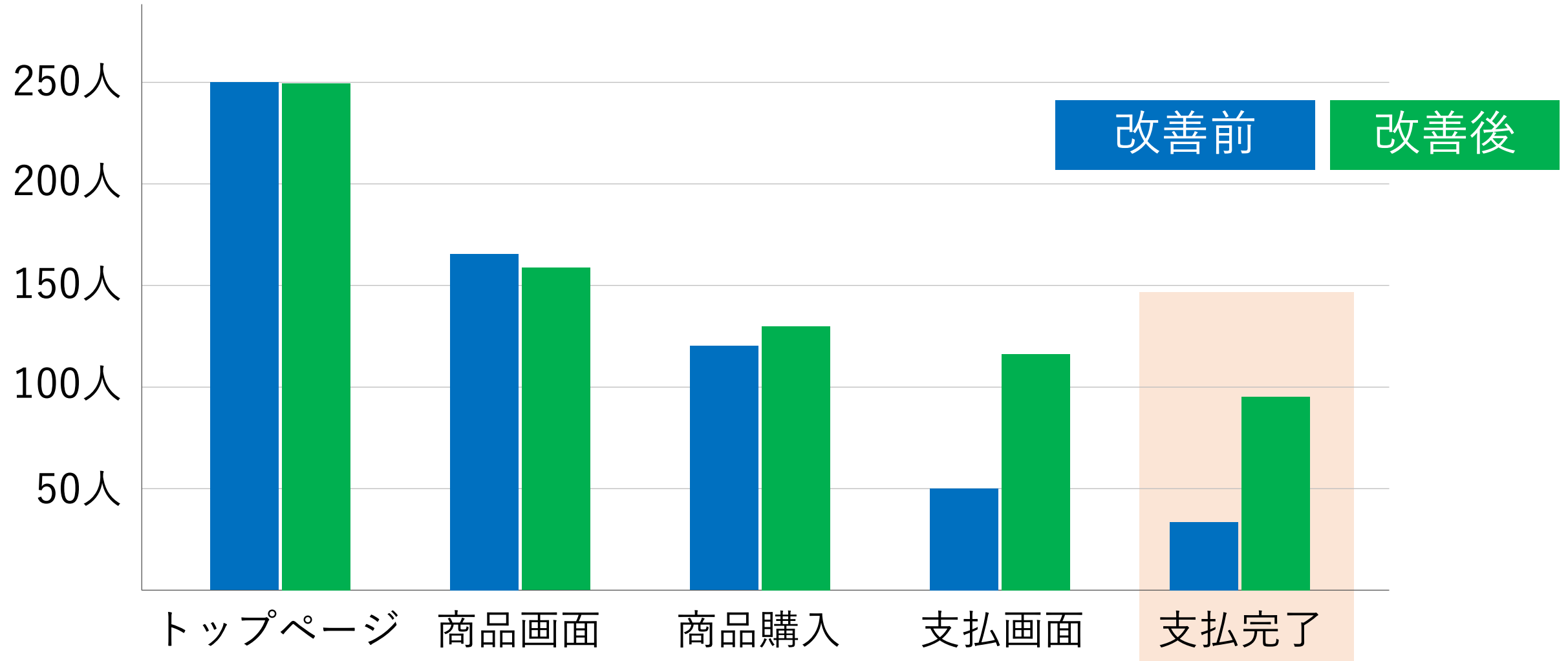
ユーザー行動の可視化

サイトを改善して、支払画面にいきやすくした



ユーザー行動の可視化

支払完了まで進んだ人数も増えた（＝売上の増加）



DXの基礎とビジネス活用

ムダをなくす

1. 物と時間を節約する
2. 単純作業と繰り返し作業

ミスをなくす

3. 手作業ミスを防ぐ
4. 重大な判断ミスを防ぐ
5. 品質を維持する

データを活用する

6. ユーザー行動の可視化

7. ターゲティング

8. データサイエンスと予測精度
9. データの収集

デジタル化のリスク管理

10. セキュリティ意識の徹底
11. モラル意識の徹底

まとめ

12. まとめ

今回のポイント

ターゲティング

データを活用する

1. ビジネス現場でDXを行うときのポイント

- デジタルの活用によって「顧客の行動データ」を取れる
- サービスの改善や、マーケティングに役立てる

2. データの活用（例）

- ユーザー（顧客）行動の可視化
- ターゲティング
- データサイエンスと予測精度
- データの収集

ターゲティング

1. ポイント

- ユーザーの属性に合わせて、そのユーザーに合った内容を提供する

2. 例えば

- 女性向け広告を、女性だけに見せる（男性には見せない）
- 広告マーケティングを効率的に行うことができる
（コストが安い）

ターゲティング

1. ポイント

- ユーザーの属性に合わせて、そのユーザーに合った内容を提供する

2. 例えば

- 女性向け広告を、女性だけに見せる（男性には見せない）
- 広告マーケティングを効率的に行うことができる
（コストが安い）

→ 効率よく利益を稼ぐためには、ターゲティングは必須！

ターゲティング

3. 属性（例）

- 顧客1人1人の属性、好みに合わせた商品を提案すること
 - 年齢
 - 性別
 - 住んでいる地域
 - 趣味

4. ターゲティング（例）

- 健康意識が高く、料理が趣味な人に対して、
- 料理に使える健康的な調味料の広告を配信すると効果的

ターゲティング

5. 行動履歴に基づくターゲティング

- あるショッピングサイト
 - はじめてサイトに来た人には10%割引価格
 - リピート利用者は、割引しない
- ユーザーによって、価格を変える

今回のポイント

ターゲティング

DXの基礎とビジネス活用

ムダをなくす

1. 物と時間を節約する
2. 単純作業と繰り返し作業

ミスをなくす

3. 手作業ミスを防ぐ
4. 重大な判断ミスを防ぐ
5. 品質を維持する

データを活用する

6. ユーザー行動の可視化

7. ターゲティング

8. データサイエンスと予測精度

9. データの収集

デジタル化のリスク管理

10. セキュリティ意識の徹底

11. モラル意識の徹底

まとめ

12. まとめ

今回のポイント

データサイエンスと予測精度

データを活用する

1. ビジネス現場でDXを行うときのポイント

- デジタルの活用によって「顧客の行動データ」を取れる
- サービスの改善や、マーケティングに役立てる

2. データの活用（例）

- ユーザー（顧客）行動の可視化
- ターゲティング
- データサイエンスと予測精度
- データの収集

今回のポイント

データサイエンス

データサイエンス

1. ビジネス現場におけるデータサイエンス活用

- 統計の考え方を使って、大量のデータから、
ビジネスにおける有用な知見を生み出す

2. マーケティング

- 過去の売上データを分析することで、
今後の売上の予測をすることができる
- 予測精度の高さが、データサイエンスの特徴

今回のポイント

売上予測（例）

売上予測の精度の向上


1. 例

- アイスの新商品を発売することになった
- 通常のアイスの新商品は、売上は10億円くらいだが、今回は、
 - 今年の夏は気温が高くなりそう
 - 夏休みシーズンに発売するので、子供たちが多く買いそう
 - 広告宣伝の予算を増やすので、売上も増えそう
- データサイエンスを活用して、上記それぞれの要因によって、どれくらい売上に影響を与えそうか？を計算する

売上予測の精度の向上

アイスの新商品の売上を予測する

過去の販売データから得られた傾向（例）

気温	気温が30度を超えると、売上は5%アップ
夏休み	夏休み時期（7月～8月）になると売上3%アップ
広告宣伝	広告宣伝予算を増やしたとき、売上10%アップ
	
売上	これまでの新商品より、15～20%多く売れそう

売上予測の精度の向上

アイスの新商品の売上を予測する

過去の販売データから得られた傾向（例）

気温

気温が30度を超えると、売上は5%アップ

夏休み

夏休み時期（7月～8月）になると売上3%アップ

広告宣伝

広告宣伝予算を増やしたとき、売上10%アップ



売上

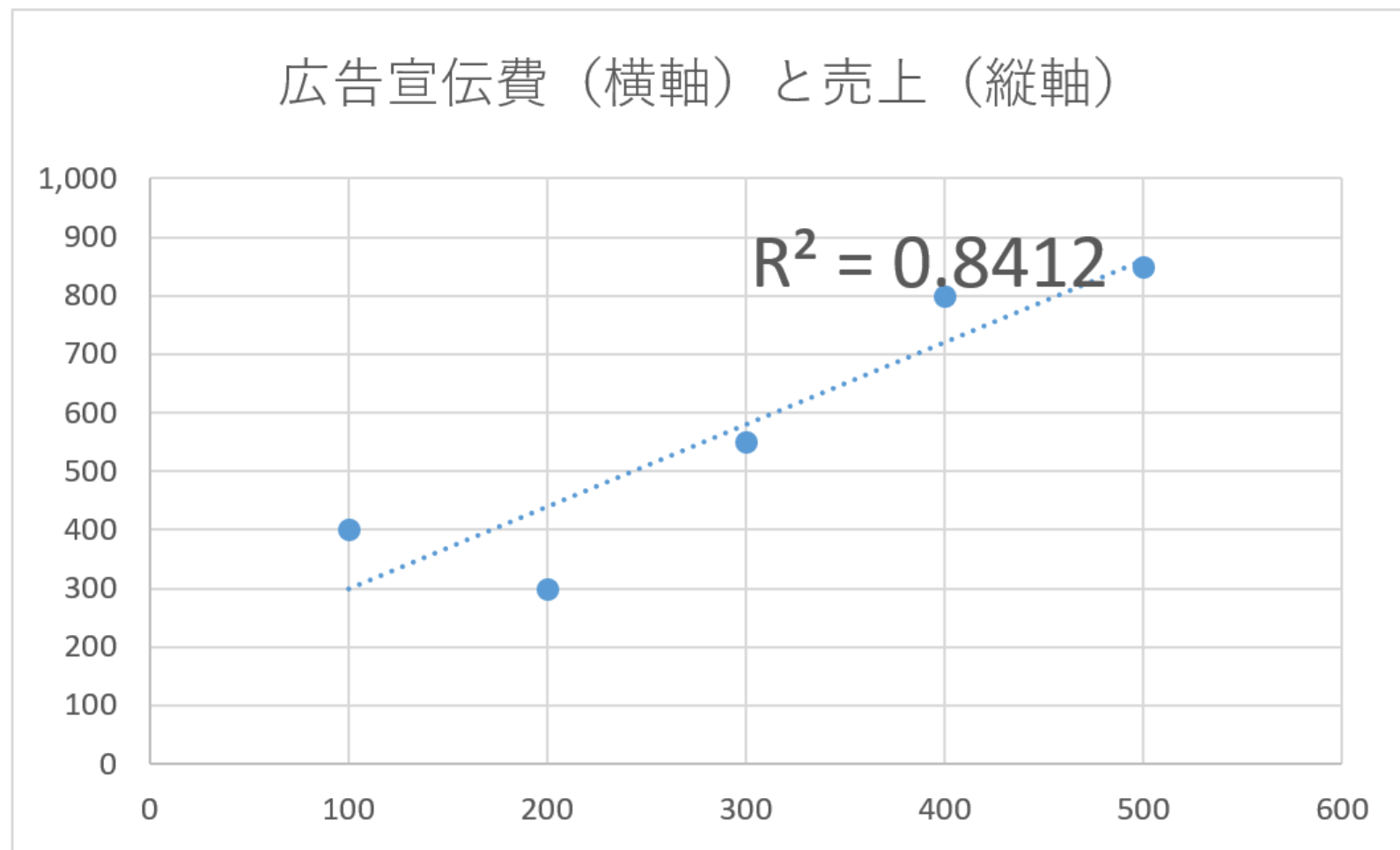
これまでの新商品より、15～20%多く売れそう

今回のポイント

相関分析（回帰分析）

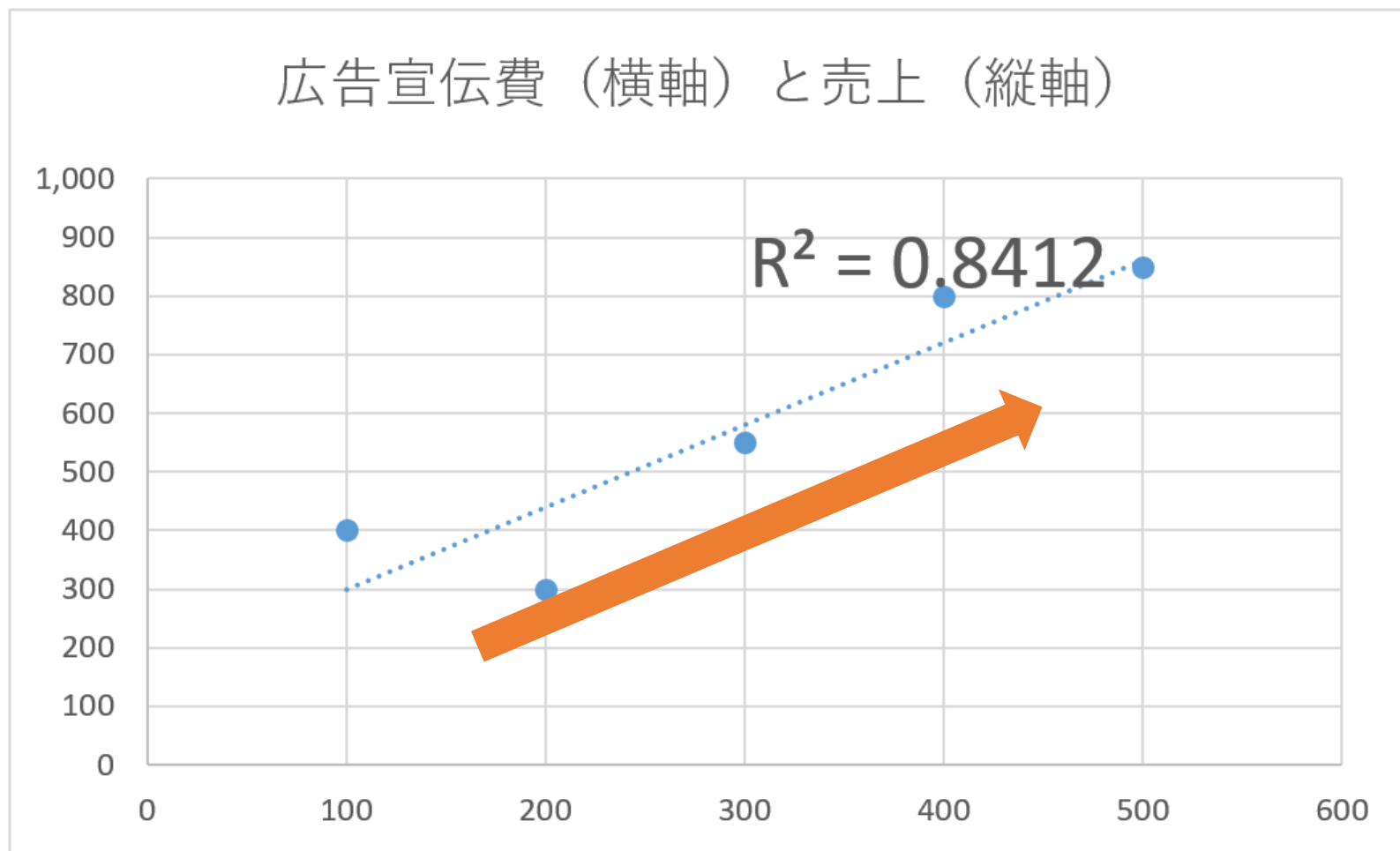
相関分析

過去5ヶ月間の、広告宣伝費と売上の関係。2つの数字に関係はある？



相関分析

広告宣伝費が多いほど、売上も多い（関係性がありそうだ）



今回のポイント

データサイエンスを活用したレコメンド機能

レコメンド

1. デジタルサービスの特徴

- 誰がどの商品を買ったかデータで分かる
- 「Aを買った人は、次にBを買う傾向がある」
といった予測をすることができる

2. レコメンド (Recommend)

- Aを買った人に対して、次はBもどうですか？とオススメすることで、売上アップにつなげる

レコメンド



類似商品をオススメする



今回のポイント

その他の例

データサイエンス

1. 人事データ

- 社員の退職率が高いので、改善したい
- 退職率に影響を与える要因は何か？
 - 労働時間が長いほど、退職率が高い？
 - 営業部にいる社員は、退職率が高い？
 - 給与がXXX万円以下の社員は、退職率が高い？
 - あるいは、すべての要因が関係している？

→ データサイエンスの活用で要因を分析する

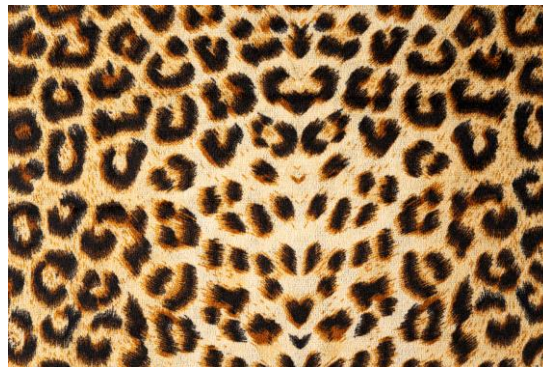
今回のポイント

画像分析

データサイエンス

1. 画像分析

- 大量の「動物の」画像を解析する
→ ある画像が何かを推測する



この柄はヒョウ！

今回のポイント

データサイエンスの注意点

データサイエンス

1. 注意点

- 統計的な視点から「一番もっともらしい」答えを探す
- したがって、100%当たる分析ができるわけではない

データサイエンス

1. 注意点

- 統計的な視点から「一番もっともらしい」答えを探す
- **したがって、100%当たる分析ができるわけではない**
- だからといって「ミスが起きるなら意味ない」わけではない
- 人間の作業でもミスは当然起きる
 - データサイエンスの活用により、
人間の「勘」よりも正しい判断を目指す

今回のポイント

データサイエンスと予測精度

DXの基礎とビジネス活用

ムダをなくす

1. 物と時間を節約する
2. 単純作業と繰り返し作業

ミスをなくす

3. 手作業ミスを防ぐ
4. 重大な判断ミスを防ぐ
5. 品質を維持する

データを活用する

6. ユーザー行動の可視化

7. ターゲティング

8. データサイエンスと予測精度

9. データの収集

デジタル化のリスク管理

10. セキュリティ意識の徹底

11. モラル意識の徹底

まとめ

12. まとめ

今回のポイント

データの収集

データを活用する

1. ビジネス現場でDXを行うときのポイント

- デジタルの活用によって「顧客の行動データ」を取れる
- サービスの改善や、マーケティングに役立てる

2. データの活用（例）

- ユーザー（顧客）行動の可視化
- ターゲティング
- データサイエンスと予測精度
- データの収集

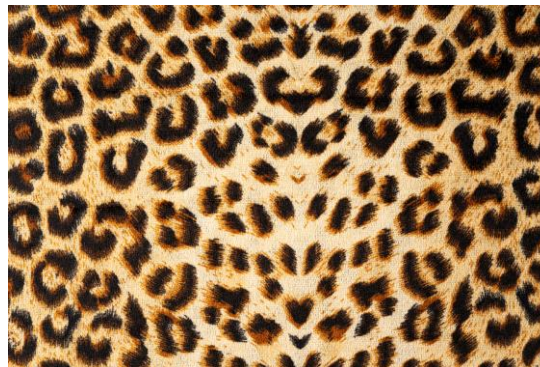
今回のポイント

データ分析するために、まずはデータを集める

データの収集

1. 画像分析

- 大量の「動物の」画像を解析する
→ ある画像が何かを推測する

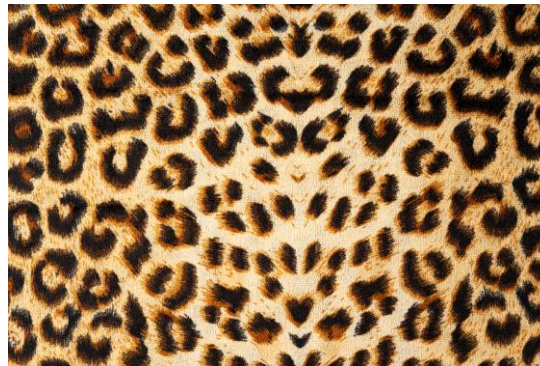


この柄はヒョウ！

データの収集

1. 画像分析

- 大量の「動物の」画像を解析する
→ ある画像が何かを推測する

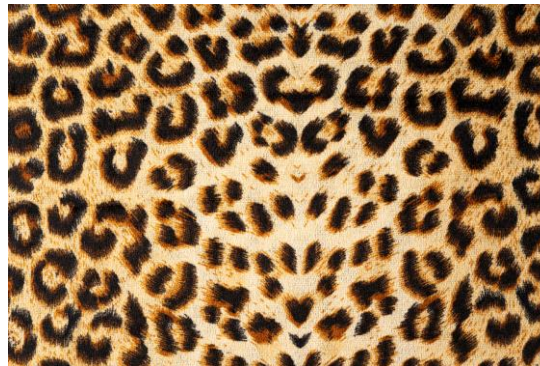


この柄はヒョウ！

データの収集

1. 画像分析

- 大量の「動物の」画像を解析する
→ ある画像が何かを推測する
- この解析・推測をするためには大量の画像と答えが必要



この柄はヒョウ！

今回のポイント

機械学習

データの収集

1. 機械学習

- プログラムに、大量のデータを学習させて、特徴を見つける
- そのプログラムに画像を読ませて、この画像が何か推測する

データの収集

画像

解答



ヒョウ



ライオン



トラ

機械学習

これは？



ヒョウ！

データの収集

1. ポイント

- プログラムに、大量のデータを読み込ませる必要がある
 - たくさんの画像と、その答え
- はじめの「答え」は、手作業で用意する必要がある
 - データを用意せずに勝手に答えを出してくれるわけではない

今回のポイント

データ分析の事例

売上予測の精度の向上

復習

アイスの新商品の売上を予測する

過去の販売データから得られた傾向（例）

気温

気温が30度を超えると、売上は5%アップ

夏休み

夏休み時期（7月～8月）になると売上3%アップ

広告宣伝

広告宣伝予算を増やしたとき、売上10%アップ

売上

これまでの新商品より、15～20%多く売れそう



医師による医療画像の検査、診断

- 画像検査の見落とし
- 疾患を見つけるべきところを、見落としてしまった
 - 医療ミス（人為的ミス）
 - 患者側から訴訟されるケースも
- 医療画像を分析して疾患を見つけるシステム

DXで品質を維持する

1. 工場

- 製品に問題がないか、人間の目でチェック
→ 製品をカメラで分析して、その画像から、
不具合がありそうなところを発見する



データの収集

1. データ分析には、元のデータが必要

- 気温、広告宣伝費、売上データ
 - その日は平日だったか、それとも週末か？
 - 医療画像（疾患ありの画像、なしの画像）
 - 不良品の画像
- 正しいデータと答えを大量に用意しないと、
推測の精度も上がらない

DXの基礎とビジネス活用

ムダをなくす

1. 物と時間を節約する
2. 単純作業と繰り返し作業

ミスをなくす

3. 手作業ミスを防ぐ
4. 重大な判断ミスを防ぐ
5. 品質を維持する

データを活用する

6. ユーザー行動の可視化

7. ターゲティング

8. データサイエンスと予測精度

9. データの収集

デジタル化のリスク管理

10. セキュリティ意識の徹底

11. モラル意識の徹底

まとめ

12. まとめ

今回のポイント

デジタル化のリスク管理

デジタル化のリスク管理

1. ビジネス現場でDXを行うときのポイント

- デジタルの活用によって発生する「新たなリスク」を理解して、全社員がリスク管理に努めましょう

2. リスク管理（例）

- セキュリティ 情報管理・安全性を重視する
- モラル 社会的に間違ったことをしない

デジタル化のリスク管理

1. ビジネス現場でDXを行うときのポイント

- デジタルの活用によって発生する「新たなリスク」を理解して、全社員がリスク管理に努めましょう

2. リスク管理（例）

- | | |
|----------|----------------|
| • セキュリティ | 情報管理・安全性を重視する |
| • モラル | 社会的に間違ったことをしない |

今回のポイント

セキュリティ意識の徹底

今回のポイント

情報漏洩リスク

情報漏洩リスク



情報漏洩リスク

- データ入力・閲覧を
自宅でしようと、
データを持ち帰る
- 電車の中で、データを入れた
バッグを紛失
- 外部に情報が漏れてしまった

DXによる、手入力ミスの削減

1. 情報漏洩による損失（例）

- 顧客にお詫びのお金を支払う
- 「あの会社、顧客情報を外に漏らしたらしいよ」という悪い評判
- たった1回のミスで、多大な損失が発生する

2. DXによる情報漏洩の防止（例）

- セキュリティ対策されたPCのみデータにアクセス可能
- データを外部に持ち出せないように対策する

→ 社内で決められたルールを必ず守る

今回のポイント

データの収集と個人情報

データの収集と個人情報

1. データ収集で気をつけたい点

- ユーザーから多くのデータを集めれば、マーケティングなどに活用できる
- しかし、ユーザーから収集するデータが、「万が一、流出してしまったら？」
を想定すると、個人情報をたくさん収集するのは危険

データの収集と個人情報

1. ウェブサイトでユーザーが登録する情報（例）

- どちらのほう情報が漏洩したときのリスクが高いか？

→ Bの情報が漏洩したら、ユーザー個人が特定されてしまい、
住所、電話番号など個人情報が広まってしまう

ウェブサイトA

vs

ウェブサイトB

- ID
- ニックネーム
- 年齢

- 実名
- 年齢、性別
- 住所、電話番号

今回のポイント

セキュリティ意識の徹底

DXの基礎とビジネス活用

ムダをなくす

1. 物と時間を節約する
2. 単純作業と繰り返し作業

ミスをなくす

3. 手作業ミスを防ぐ
4. 重大な判断ミスを防ぐ
5. 品質を維持する

データを活用する

6. ユーザー行動の可視化

7. ターゲティング

8. データサイエンスと予測精度

9. データの収集

デジタル化のリスク管理

10. セキュリティ意識の徹底

11. モラル意識の徹底

まとめ

12. まとめ

今回のポイント

モラル意識の徹底

モラル意識の徹底

1. ビジネス現場でDXを行うときのポイント

- モラル（＝倫理、道徳）を必ず大事にする
- さまざまなことに気を配る
 - 性別、人種、マイノリティ
- 「誰かを傷つけていないか？」を考える

→ 具体的には？

今回のポイント

人種差別

モラル意識の徹底

1. 実際にあった問題

- Google 社が提供する、写真に名前（ラベル）を付ける機能
- ラベル付けにミスが発生してしまい、大きな問題が起きた

モラル意識の徹底



モラル意識の徹底



猫



自転車



サッカー



ゴリラ

モラル意識の徹底

1. 実際にあった問題

- Google 社が提供する、写真に名前（ラベル）を付ける機能
- ラベル付けにミスが発生してしまい、大きな問題が起きた

2. ポイント

- デジタル技術の進化の過程で、当然ミスは発生する
- 許されるミスと、許されないミスがある
- 特に人種差別につながるミスは、
最優先で回避、修正しなければならない

今回のポイント

社会への脅威

モラル意識の徹底

1. 社会への脅威

- AIを活用して、これらを簡単に学べる社会は、良い社会か？
 - 爆弾のつくりかた
 - 犯罪をしてもバレない方法
- デジタル活用によって、様々な情報を集めることができ、より研究を進めることも可能
- ただし、それはあくまで、社会の平和につながるものでなければいけない

今回のポイント

まとめ

モラル意識の徹底

1. ビジネス現場でDXを行うときのポイント

- モラル（＝倫理、道徳）を必ず大事にする
- さまざまなことに気を配る
 - 性別、人種、マイノリティ
- 「誰かを傷つけていないか？」を考える
- 「社会にとって良いことか？」を考える

今回のポイント

モラル意識の徹底